

## シリーズ

## “キラリ企業”の現場から 第27回

公社のさまざまな支援サービスをご利用いただいている元気企業を紹介する“キラリ企業の現場から”。第27回目は、プラスチックの真空成形(注1)用金型のトップメーカーであるバキュームモールド工業株式会社(墨田区)をご紹介します。

同社は公社が提供する中小企業向けの福利厚生サービス事業「JOYLAND」(注2)や研修事業を活用されています。同社業務部の枝松マネージャーよりお話を伺いました。

## 真空成形金型のリーディングカンパニー

## バキュームモールド工業株式会社

## 創業から半世紀の歩み

昭和33年、北澤隆会長が個人で墨田区東向島において、同社の前身である北澤造形を創業した。当時から型を製作しており、石膏型、木型、金型と幅広く手掛けていた。

創業後しばらくして、とある真空成形機のメーカーが「安いコストでプラスチックの容器が造れます!」という触れ込みで成形機を売り出したことで、多くの企業が真空成形機を導入し始めた。成形機が売れるということは、当然、成形機用の金型の需要も増加するということである。そこで同社も真空成形金型の製作に注力し、昭和38年に社名をバキュームモールド工業有限会社に変更、工場も現在地に移転した。



バキュームモールド工業(株)の社屋

このころから、白物家電、自動車部品、食品トレー等にプラスチック製品が広く使用されるようになった。特に惣菜や弁当といった食文化が広まったことで、それらに使用するプラスチック容器の需要は大きく増加した。それに伴い、同社の受注量も増え、今では7割以上が食品関連となっている。

## お客様にプラス・アルファの提案

枝松マネージャーは言う。「私たちは、『金型屋はサービス業である』と思っています。お客様に期待されないと仕事ができない業界なので、お客さまが第一であり、求められるものをきちんと作り納めることが基本です。その上で、お客様のニーズに対応する能力は、他社より進んでいると自負しています。」

ここ2、3年は原材料の高騰や、惣菜や弁当を扱うコンビニエンスストアの飽和状態などで受注量、売上が伸び悩み、厳しい状況が続いている。しかしこのような中でも、同社はプラスチック材料の使用量を減らすための提案、例えば「薄肉でも強度を保つことができる容器」といった提案や、それに伴う金型の開発に力を注いでいる。

また、同社の従業員数は、金型業界としては異例の200名という規模である。これは、顧客の要望に対してきめ細かく対応していった結果で、こうして顧客の要望である「使いやすく綺麗でかつ低コストなもの」に応えられる体制を整えている。

たとえば、食品容器のシリーズ物(基本的なデザインは同じで大きさ・デザインの一部が違う製品)は、一社で一貫生産したほうが品質・性能が安定する。同社では一貫生産に対応するために、人員や生産設備などの受入体制を整えている。また、金型製作に必要な工程の内製化も進めており、鋳物・メッキ等を除いてほとんどのものを内製化することでお客様のニーズに応えている。

こうして、他社が断るような仕事でも引き受けるのはもちろんのこと、「利他の心」で、自社のことよりも先に顧客のことを考えることが企業

理念になっている。またそれは、「お客様の三歩先に行く提案力」という同社の合言葉にも表れている。

真空成形用金型の業界で、同社は30%のシェアを持っているという。基本的に顧客が求めるものを、プラス・アルファの提案をしながら、より要望に沿った金型を造ることに努めてきた結果が、この数字に表れている。



真空成形用金型

## 新規採用、人材育成・福利厚生への取り組み

採用は一般的に、母集団を大きく作ってその中から選ぶことが良いと言われているが、同社でその方法はとっていない。たとえば大卒の場合は、同社を探し当てて来た人を基本的に採用する方針をとっている。今の学生は、何もしなくても就職WEBサイトから情報が入ってくるため、受け身の姿勢になってしまうことが多いと感じたことから、「自分で努力して当社を探しあてエントリーする人は、当社に比較的強い興味を持っている。その人に対して、我々の考え方をきちんと説明してあげれば、入社する確率が高くなる。そうすれば、わざわざ母集団を大きくする必要もない。」という考えを実行しているのだそうだ。そのため、採用内定後の辞退者は殆んどいない。

定期採用数は、毎年5名前後である。同社は採用後に、どう育てるかを重要視している。これについて枝松マネージャーはこう言った。「人間としての可能性は基本的に皆一緒なので、あとはチャンスを与えたときにそのチャンスを自らがどう掴むか、掴ませるかだと考えています」

こうした人材の育成には、社内研修の他に、公社の新入社員研修、トップマネジメント研修等を活用している。民間企業からも多数の社員研修に関する案内があるが、公社のほうが内容とボリュームが良く、かつ安価なので毎年利用しているとのことだ。

また福利厚生制度についても、公社のJOYLANDを平成14年から活用しており、特に遊園地等のチケットが人気だそうだ。このJOYLANDは、採用説明会等で福利厚生に対する質問等があった場合に、遊園地等が格安で利用できる制度があると案内することができるため、少なからず採用にも役立っているという。

また、同社の定年は60歳だが、嘱託雇用（1年更新65歳が目安）の形で継続雇用を実施しており、契約および更新は、本人のやる気、体力等を勘案して判断している。なお、現在の最高齢者は75歳で、今でも現場の第一線で働いている。



同社での作業風景

そうしたことの積み重ねにより、同社は平成19年度に「東京都中小企業ものづくり人材育成大賞知事賞」で、技能者の育成と技能継承に取り組んでいる都内の中小企業で、特に成果を上げた企業として「奨励賞」を受賞した。

## これからの展開

同社はこれまで真空成形用金型一本に注力して発展してきたが、将来に向けて自分たちの持っている技術を生か

せる真空成形用金型以外の展開を考えているという。

新たな取り組みの一つとして、射出成形（注3）の中でもより高度な金型の（薄肉精密）製造技術の確立がある。これに取り組む理由としては、同社が持っている経験力、設備力、技術力、提案力が活用できると考えているためである。射出成形金型は、現在では中国等での製造が多くなってきているが、薄型のものとなると高度な技術やノウハウも必要となるため、国内での製作に優位性がある。まだ、産声を上げたばかりで製品分野としては定まっていないが、同社はトップシェアを取ることを目指しているという。

もう一つの取り組みは、プラスチックに対する世の中での意識改革である。プラスチックについて世の中では公害問題をはじめとしていろいろと悪い面で話題になることが多いが、再生が可能であるという考え方からいえばエコな材料といえる。こうしたことから、金型業界も含めたプラスチック業界全体でのリサイクルに対する考え方についても、課題として取り組むべきであると考えている。

取材をする中で、同社の仕事の取り組み方、人材育成に対する考え方が、他の中小企業にはないヒューマンマネジメントにより確率されていることがとてもよく伝わった。今後のさらなる発展に期待したい。

（企業人材支援課 野口良美）

（注1）真空成形：熱で軟化した板状の樹脂を型に押しつけ、樹脂と型の間を抜き密着させて成形する方法。

（注2）JOYLAND：アミューズメントパーク、スポーツ施設等、幅広いニーズに応えるプランを低コストで提供しています。（入会金0円。契約施設150以上）

（注3）射出成形：熱で溶かした樹脂を圧力をかけて型に押し込めて成形する方法。

企業名：バキュームモールド工業株式会社

代表取締役会長：北澤 隆

代表取締役社長：大野 武志

資本金：9,000万円

従業員数：200名

本社所在地：東京都墨田区墨田5-23-1

TEL：03-3614-1556

FAX：03-3614-1559

埼玉工場：埼玉県八潮市南後谷107-5

TEL：048-932-5440

FAX：048-932-3960

URL：http://www.vmold.co.jp/